「はんにゃ」

1　還暦得度～スローライフ

還暦得度

道可道也、非常道也。老子より

六十を前にすべきこと
在家であれ得度の道を選んだ

正しく生きることは難しいこと
正しい道を歩むこともまた
悪く生きることも難しいこと
悪い道を歩むこともまた
正悪を超えて
空に生きることが
ひとつの道
その道を求めてすすむこと
悟りの道でもなく

いま・ここで
沖縄ではナマ・クマ
英語でナウ・ヒア
フランス語でイシー・マンタナン
いま・ここにナマ・クマしてさナウ・ヒアだ
その道は険しいどころか
示された道さえないのだから
ひたすら正法
ひたすら唱え
ひたすら坐れ
ひたすら合掌

妄己利他

妄には亡くなる女が覗いていて
己には女に妄想する自分がいることを忘れ
ひたむきに慈悲して利益(りやく)をもたらし
他を利するため作務して施すことだ

消え残るいのちのあとの夢桜
消え遺るいのちのあとの夢蛍
消え遺るいのちのあとの夢落葉
消え残るいのちのあとの夢冬至

諸法無我

仏と私は似て非なるもの
仏には人が座っているが
私なんてもの自我の過信
私なんてものは何もない

三毒を一掃せよ

米国の強欲資本主義という貧欲
北朝鮮の核で威嚇する瞋恚
そして日本の無智・無明の愚痴
いったいいつまでつづくのやら

風の馬から

少年はひとりで
十字軍から風の馬に乗って
絲綱街道シルクロードを走り
海豚イルカに乗って海を渡り
迦陵頻伽の鳥フェニックスになって空を飛び
新大陸ニューフロンティアへ
一通の伝令を送り届けた
そのとき
天空は陽が燦燦と輝き
数千に及ぶ迦陵頻伽がいっせいに飛び立ち
仏陀は菩提樹の下で悟りを開いた

戒め

禅定し
智慧はたらかせ
解脱せよ

般若心経の詩歌句

　句
真理とははんにゃのちえ求(さが)す道

　　歌
真理とははんにゃのちえ求す道生死を超えて心で悟り

　そして詩

般には舟が浮かび
若には艸が茂る
心に悟れば智慧が湧き
経典の真髄

そして般若とは智慧
智には日が昇り　慧には心が悟る
悟りの道ではなく
ひたすら坐る禅

素朗来富の詩歌句

句
素に生きて朗にいき富来る

　歌
素に生きて朗にいき桜観に朋ら語るや青春賦

　そして詩

素とは素直や素朴のス
朗とは朗らかや笑いのロー
来とは朋遠方より来たるのライ
富とは豊かな冨や富のフ

スローライフで生きよう

２・二十一世紀に生きる

二十一世紀起動

時は二〇一○年
ようやく二十一世紀が始まるようだ
この十年は、二十世紀の柵（しがらみ）がへばり付き
膿みが出る一方で
戦争を中心とした平和の世紀から
ガイアの世紀が始まろうとしている
人口爆発のまえに淘汰は始まり
あらゆる権威は失墜し
パラダイムシフトが変わり
世界が変わりこの国も変わる

そして二十世紀の人間たちや
政治風土、民族闘争が死んでいけば
変わるだろう
二十一世紀に生まれた人たちが
やがて成人となるとき
ほんとうに
二十一世紀の世の中が
生まれていくだろう
二十世紀転び
二十一世紀起き
歴史が動き出す

生きることは

帰りたくても帰れない過去と
生きたくても生きれない未来を
無時とよぶか有時とよぶか
いま現在のみがあり
生きるとは生ききること
死ぬるとは死にきること
生誕生成　生老病死
生死生滅　老死病滅

死死死滅　再生流転
輪廻転生　生死千般
笑止千万

　放下

頭からいらん考えや妄想を
体かいらん皮下脂肪を
心からいらんストレスを
霊性から邪鬼な魂を
それらすべてを捨ててしまえ
そうすれば無一物
無所有・ノンプロフィットとなり
あるがままの放下着となる

　地球の危機は

　地球の危機が叫ばれている
でもそれは人類だけさ
今日も象は鼻を丸めて悩み食べている
今日も麒麟は首をすぼめて生きている
自然な光景だ

高血圧とか糖尿で騒いでいる
でもそれはヒトだけのこと
今日も魚は高血圧にならず泳いでいる
今日も鯨は糖尿にならず潮を吹いている
健康な風景だ

すべて人類がまいた種
神はおそらくいうだろう
人類を救うことはないと
仏はおそらくいうだろう
人類は死滅して転生すると

正義を掲げ地球を平和にしようと
今日も核実験している国があり

今日から核廃絶しようとする国もある
不思議な光景だ

宇宙はすべてを承知している
地球の番人が狂ってきたことを
そろそろ思い知らせることを
それが自然の理
宇宙の大法則だ
やがて人類は消滅し
宇宙の塵となる
ただそれだけのことか

人類が絶滅した日

臨時ニュースです
地球から人類は絶滅しました
とある惑星のＴＶテロップが流れた
これで地球は平和に戻るでしょう…
というコメントも伝えた
地球が滅びると予言した人類の方が
いち早く絶滅したのだ
そうだったのか絶滅種は実は人類
その一億数千年の歴史に幕を閉じた
それでも地球の海は青く
空は一段と蒼く澄んで
鳥たちは喜びいさんで慶事飛行を続け

森の動物たちは親子で微笑んで遊んでいる
そして都会のカラスがヒトの死骸を食べていた

３・人生ってなんだ

木目を観る

人に生まれたことから育ち
言葉を覚えてきた私
その言葉の花束であなたに
いま詩を書いている
　ぼくの一行はきみと
世界を凍らせることは出来ないが
愛を伝えることは出来るだろう
詩に託された言葉が叫ぶ
悲しいとき、涙うかべてすすり泣く
嬉しいとき、ほほえんで笑っている
悔しいとき、ちくしょうって
感謝するとき、ありがとうって
苦しい体験をした人の素顔は慈愛に満ち
哀しい経験をした人の眼差しは慈悲深く
そして愛した人に笑顔を贈ろうよ
人の木目を観るとき
その人の年輪が光る
まるで人生ゲームのように
きみの人生はどうかなあ　ぼくの人生はどうかなあ
その人生の道筋で　いま詩を書いている
ぼくの木目は
きみを震撼させることも出来ないが
愛した人を微笑みかえすことは出来る

木々の対話

今まで申し訳ありませんが
ＣＯ２を吐いては生き続けてきました。
なんのために生きるの
さあむずかしい問題だ
人はね、この事がわからないから生きてるんだな
古代ギリシアからずっと真理を探し求めてね
仏さまもいうだろう、無明の空って
そう身体的には生理的な死が必ずくるからね

そうかいつかくる死ぬ時を待っている
生死必滅さ
だから一所懸命生きるんだ
他人の命をうばったり
自らの命を絶ってはいけない
寿命は
これはしかたないことで
これかららも申し訳ありませんが、
ＣＯ２を吐いては生き続けていきます。

全静期

小川の静かさはせせらぎ
大河の静けさはやすらぎ
その静けさはときに
うねりをあげて人を呑み
自然すら呑み込む
せせらぎからやすらぎへ
その旅はつづく

人の盛りを全盛期というが
ほんとうは全静期なんだ
不平不満をいう者は騒ぎ出し
知足した者はゆったりと静かに坐す

人生の待ち時間

いつも誰かを待っていた
人生のプラットホームで
待ち時間はとても長くそして案外短い
待つよりも待たされる方が辛い
辛いことに目をつぶるな
人生は待つためにあるのでもなく

生きることは暇つぶし
いやひつまぶし石つぶし
お前のような人間は必要ない

誰もが太宰になれるわけではなく
誰もが成仏できるわけもない
いつも誰かを待っていた
行く先のない終点もない
人生のプラットホームで

人生の帰り道

国木田独歩の住居跡や
ニ・ニ六事件の慰霊像のある
渋谷の平成坂を下りると赤信号
カフェ「人間関係」の前に立ち止まり
ふと、生きてきた道を振り返る
その人間関係でつまずいたり
人をなじったり憎んだり
人にずいぶん迷惑をかけたり
赤を黒といったり　法螺を吹いたり
至極反省ばかり
それでも生きてきた白い道を
消すことはできないのだから
せめて残された半生に悔いを遺すな
人の痛みを受け止めろ
それが人生の帰り道
冥途に土産はいらないのだから
いまここで施せばよい
置き土産すればいい
そうすればきっと青い空が見えるよ
菩薩さまが現れて微笑んでくれるよ
ライトアップされた煉瓦街
黄昏れた横浜の開港祭で
打ち上げられた花火の儚さは
まるで人の一生みたいで
あわてて浮遊し生き急ぐ
カモメたちの叫び声を聞いていた
人生の帰り道

４・愛ってなんだ

穀雨のころ

桜散って新緑のころ
穀物が育つには雨が必要だ
虚空が曇りかけると
農民たちは乞うている
土の中の微生物も一緒になって

雨降らゃ雨降りぃ雨降るやしゅ

ヒトが育つにも
体には健康な食べ物と
心には慈悲に満ちた愛情とが必要だ
もし二つの栄養が欠如すれば
家族崩壊や犯罪を犯すだろう
親たちは乞うている
身体の細胞も一緒になって

愛降らゃ愛降りぃ愛降るやしゅ

空から雨が降って来た
心から愛が光って来た

古都の春

京都の春は花が似合う
梅の嵯峨釈迦堂
桜の清水寺に能舞台
馬酔木の浄瑠璃寺

武将や強者どもの歴史を
傍観した花たちは
冬の沈黙から春に咲いて
はかなく散っても
はかなくは死なない

また種を蒔き
権力闘争には見向きもせず
ふたたび冬の沈黙から春に咲いて
歴史を見据えて散っていく

またふたたびの春に
都が戻ってくることを
首を長くして待っている
花たちよ　愛たちよ

浜辺の茶屋インオキナワ

浜辺からみた　一枚の静謐な麗しい海の絵画
夕凪のカンバス
潮騒さえ聞こえない　時を忘れさせる永劫の今
あなたが生まれ育った　青くて蒼い島を
初めて訪ねた

その青い珊瑚の海は　紺碧な空へとつづく
神々のいる天国への階・きざはしだ

歴史の怨念すら　すべてを飲み込んだ
豊かで明るい島　まるで
あなたの秘めた情熱に似て

ガジュマルの老樹に　愛という文字が刻まれていた
そこにはあなたの笑顔が映る

南国の樹林が鬱蒼とする　道なきヤンバルの森へ
迷い込み　そう思えた瞬間
まとわりつく現実が　後から追いかけてきて
夢から覚める

それでも思う　ほんとうに人を
好きになったことがあったのか
ほんとうに人を
愛したことがあったのか

あなたに逢えてよかった

ぼくの一行はあなたと
世界を凍らせることは出来ないが
愛を伝えることは出来るだろう
あなたに逢えてよかった、と
どこかで聴いた歌詞のように
あなたの瞳はいつも輝いて
ぼくを見つめていたのに
あの島に行こうといって
去っていったあなたを
ぼくはいまもその島で
一人海を見つめている
海の彼方にあなたがいることを
信じて叫んで

よんでみる
しんけんに
こえを一段とあげて
あなたに逢えてよかった、と
いっしょに
しあわせに
てんまでとどくように
いっしょけんめい
まことのこころを伝えます
すきです…